**アンケート・ピックアップ**

**5月19日　株式会社ユーザベース 代表取締役共同経営者　梅田　優祐　氏**

**問１　学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

新規事業を始めた目的の1つが「HAPPY」に働きたいから、というのが衝撃的でした。しかし、多くの人がこのような目標をもって働くことを考えれば、満員電車の中で死にそうな顔をしたサラリーマや、「暇すぎてつらいわー」と言っている学生も減るのではないかと思います。私自身も、人生の目標が「楽しく生きる」ことです。何が自分にとって楽しいことなのか、まだはっきりしたことは言えないですが、刺激的な大学生活を送る中で見つけて、仕事につなげていきたいと思いました。（経営・経営・1年）

梅田さん達の創造やスピードが、今の会社をリーマンショックから立ち直らせたことを聞いて、日本独特の時間をかけて決断するやり方は、もう遅いのだと思いました。新しく始めることは論理的に考えるのではなく、直観や感性で動くことが大切だという事も印象に残っています。この考えは新規事業だけでなく普段の生活にもつながると考えました。やってもいないことにグダグダ考えるのではなく、とりあえずやってみる、とゆう考え方が成功に近づくことだと思いました。また、ビジョンとバリューがしっかりした会社に入るとゆう言葉も納得がいきました。創立者だけがビジョンを持っていても社員に届いていなければその企業は成長しないと私も思いました。（経営学部1年）

人との出会いは大切であると感じました。企業することが目的ではなくて現代社会をどのように変えていくかが起源となっていることから、その会社や仲間とのビジョンが共有できるのだと思いました。私自身も夢があるのですが、その夢を実現するために頑張るのではなく、自分がどうなりたいかを考えてがんばって行きたいと思います。また私は経済ニュースなどに少し弱いので、必ずニュースピックスをダウンロードしようと思います。(経営学部 経営学科 1年)

梅田さんの考え方にはとても感動しました。①世界の非合理を変えたい②HAPPYに働きたいという考え方は私にはとても新鮮でした。特に②の方はほかの企業はあまり目標にしているイメージがなく、でも私はどんなに忙しくても楽しく働きたいと思っているので、自分が就職活動をする際にはユーザーベースさんのように楽しく働くということを目標に掲げている会社に注目していきたいと思いました。また、講義の中盤に出てきた育児休業の話もすごく印象的でした。私の育児休暇のイメージも梅田さんの会社のメンバーの方と同じで出産直前というものでした。今まで育休のことを調べてどこの企業が取りやすいかなどは学んでいましたが、妊娠発覚翌日から休むことが出来るという話は聞いたことがありませんでした。梅田さんの会社のように、妊婦さんなど大変な時期にある人にやさしい会社が増えていけばもっと多くの人が笑顔で働けると思いました。（経営・会計情報・1年）

　出会いはとても重要なのだと学んだ。「誰とやるかは何をやるのと同じくらい重要」という言葉はとても印象に残った。金儲けのためや起業したいでの起業はダメで何のためにやるかというビジョンが大切だと学んだ。価値観の相違は仕方がないことだと私は思っていたので、共通の価値観を作るというのはすごいと思った。（経営学部　会計・情報学科　1年）

私も起業を希望しています。その成功プロセスにおいて、思い描いていた「こういうことなのでは？」ということが全て合致しました。このようなことは初めてです。ただ一つ、会社を軌道に乗せてからのことは全く考えたことがなかったので、非常に参考になりました。（経営・経営・４年）

合理化されていて便利に見える社会でも、様々な欠落があり、不満に感じる部分がビジネスの世界にはあるという話を聞いて、アイディアは無限大で、まだ開発の余地はいくらでもあることを学んだ。（経済・経済システム・1年）

ベンチャー企業の強みは「想像力」と「スピード」の２つであり、ユーザーの不満度の高いニッチに溶け込み、一点突破するという考え方に共感できる。大企業がはいれないフィールドである分野を特化することで競争相手を減らすことができるのは、成功につながると思う。（経営・会情・1年）

　SPEEDAに相当するソフトがあれば見てみたいと以前から思っていた。講演してくださった方に共通しているのは、自分の価値の下で、成し遂げたいことを明確に持っていることである。また、偶然に出会う人のつながりを大切にすべきだと感じた。特に今は大学という期間限定の特殊な生活を送っている。血眼になって探しても運命の人なんて見つかるものではない。力まず、興味のあることに打ち込み、そこで見つかるかもしれない運命の仕事に出会えたら、と考えている。（経営・経営システム科・一年）

梅田さんの“喜怒哀楽の振れ幅をいっぱいに使って毎日を過ごしたい”という言葉に感動しました。大人になっても熱中できることを見つけて精一杯取組めていることは素敵だと思いました。経営者というと何でもかんでも一人で決めるイメージを持っていたので梅田さんの“共同経営”という話は本当に新鮮でした。売り上げを上げることがすべてではなく会社内の人間関係をうまく調整していくことも一番大切なことだと思いました。ただ何となく毎日を過ごすのではなく五感を刺激する刺激できるような場所に身を置いて楽しくいろんな経験をしてみたいです。(経営学部経営学科1年)

**問２　今後のアクションに繋げていきたいこと**

　日々に充足感を感じること、喜怒哀楽があふれる日々にするこよは自分から行動しないと得られない成果だと思ったので充実させる方法を考えて生活したいと思いました。会社に入るとき、ビジョン＆バリューとは、について社員も言える所はいい会社だという言葉に重みを感じたので、覚えておこうと思います。（経営・会計情報・１年）

経済学部であるにも関わらず、経済情勢に触れておらず、新聞もとってないし、テレビも見ないので、スマホのアプリを通じて経済ニュースに触れようと思いました。そして、梅田さんが大学時代にもっとこうしておけば良かったという中に、社交的になるということが挙げられていました。それは特に自分にすごく当てはまることで自分が内向的であるために後悔したことが幾度となくありました。いろいろな可能性があふれているこの大学生活で自分を変えることができるのは今なのだろうと実感しました。楽しむことをモットーとして自分も新しい何かを見つけられるように有意義な大学生活を送りたいです。

（経済学部　国際経済学科　1年）

今、大学生でしかできないことを通じて感性を育てていきたい。大企業に就職することだけに向けるのではなく、起業することに関しても目を向けていきたい。これからの人生において何がHAPPYなことなのかということを考えていきたい。スマホネイティブ世代としてまだまだ発展途上であるスマホをもっと進化させる方法を見つけたい。これからの時代、日本だけでなく世界にも目を向けて大学生活を送っていきたい。（経営・経営・1年）

まず今行っている企業分析では既存の企業の課題やここを改善したら伸びる！という点を探しています。梅田さんのお話を参考に大企業に独占されている市場、小さな不満がありつつもなかなか変革のない市場に目をつけて取り組んでみたいと思います。　また、すごく漠然としていて難しい問題ですが「今を楽しむ」ということにも力を抜きつつ意識していきたいです。（経営・経営・１年）

**授業スタッフの感想１**

　今回のリアクションでは、梅田さんの学生時代の話を受けて、安心する人と不安になる人の二つに主に分かれていた。梅田さんは、今の経営者の姿からは想像できない、いわゆる楽しい大学生活を謳歌したというものであった。そこから、日常の中にある社会問題を見つけ、偶然の人との出会いもあり、事業を立ち上げることができたとのことだった。質問の答えでも、出会いは掴み取るものではなく、偶然手に入れるものだという話もあった。このようなことから、今から焦る必要はなく、学生生活を一生懸命過ごせばよいのだと結論を出した人や、偶然なら自分は出会うかどうかわからないから、これから何かをしなければならないという不安を抱いたひともいるのである。

　確かに、今からいろいろ活動していれば、よりいろいろな人やモノに出会える可能性も高まるため、将来を考えると有効かもしれない。しかし、結局自分が将来やることは一つであるので、ほかのすべてのものを完全に活用することはできない。たくさん手をだして、本来の自分の興味を見失ってしまう可能性もある。先日、株式会社スペースマーケットの本社に訪問し人事の方に企業インターンについてお話を伺ったところ、いろいろな分野に手を出すよりも、自分の興味のあるところ、または流れでここでもいいかなと思ったら早めに決めてしまった方がいいとのことであった。将来どのようなつながりが生まれるかわからない。今回の講義で改めて決断力の大切さを感じた。

**授業スタッフの感想２**

今までに様々な起業家の方々に来ていただきましたが、私は梅田さんのような上司についていきたいと思いました。HAPPYに働くという考えは私もずっと思っていることでした。私はそのためにはやりたい仕事をやらなければないと考え、大学生のうちに様々なスキルを身に着けようと思ってきました。しかし、それよりもその会社の理念のようなものを把握しておかなければいくらやりたい仕事でも駄目だなと思いました。また、私は今まで一人だけ真剣になっていたり深く考えていたりして浮いてしまうことがあり、それが悪いことだと思ってきましたが、自分は喜怒哀楽を出して本気で取り組んでいるのだと少し自信がわきました。わたしにとって、いつもに増してとても有意義な講義でした。